ワンダイム／新生病院

# 海外医療協力（バングラデシュ）派遣報告会

報　告　　酒井典子医師
（新生病院　診療部長、整形外科医長）

2016年7月24日（日）14:00～
日本聖公会　長野聖救主教会にて

派遣期間
2016年4月28日(木)
～5月7日(土)
派遣地
ジョイラムクラ・
クリスチャン病院

ジョイラムクラは、
バングラデシュ北部、
国境に近いガロ族の村。
ダッカ国際空港から、
車で約4～5時間です。

# 今回参加した先生方

酒井典子医師（整形外科、新生病院）下列右から２番目
榊原政裕医師（整形外科、北海道浦幌町立診療所長
元・新生病院副院長）下列左端
寺島左和子医師（形成外科、新生病院）上列右から２番目
酒井洋徳医師（歯科口腔外科、長野市民病院）上列左端
※湯田勝彦（プログラムコーディネーター）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 酒井洋徳先生 | ビジュット先生（一般外科） | 寺島先生 | 近藤恵先生（医療宣教師、外科） | |
| 榊原先生 | タポス・レマ先生（院長、整形外科） | ルーシー先生（副院長、産婦人科） | 酒井典子先生 | シュキラさん（総看護師長） |

# 今回の活動の目的

## ①医療協力活動

・主に現地医師には難しい手術などを行う。

・医療技術の提供のみ。医療費の支援はなし。

※　宮崎先生は医療協力活動で治療した患者さんの医療費の半額を支援として支払っていました。

　ワンダイムも新生国際医療協力基金からこの活動を受け継ぎ、新たな募金の呼びかけ（ファンド・レイジング）をすることにより、医療費の半額支援を再開することが今の目標です。

## ②今後の活動のための打ち合わせ、調査

・ジョイラムクラ病院常務理事との打ち合わせ

※　今年から交代されたので、ＭＯＵ（現地医療協力活動における双方の役割分担）の再確認と、医療費支援の再開の意思があることをお伝えしました。

・ジョイラムクラプロジェクトの事業展開調査

※　敷地内の池や畑を活用した地域開発事業、附属看護学校や助産師学校の展開など、今後の活動のために。

## ③国際情勢に注意し安全に活動を終え帰国すること

※　2015年10月、バングラデシュ西北部で働く日本人がテロにより殺される事件があり、大きなショックを受けました。

　それからかなり落ち着きを取り戻し、バングラ国内では他NPOの日本人スタッフも活動を再開。

　私達ワンダイムの医療協力チームは、レマ院長のアドバイスもあり、滞在中24時間警護をつけてもらい、今回の活動に行きました。

現地警察の24時間警護態勢

# 診察と手術のデータ

①診察　診察した総患者数　　１８８人
②手術　５７人（抜歯も含む）
（全麻１５人、腰麻３人、局麻３８人、伝麻１名）

# 病院の様子など

## ①手術室

手術台２台、麻酔器が１台増え２台に。
全身麻酔手術が２例同時に行えるようになりました。

手術室にだけ、２台もエアコンがあります。
快適ですが、手術用ユニフォームだけでは少し寒い…。

窓が鉄枠からアルミサッシに改修。
スタッフ用トイレはバングラ式から洋式に改修！
でも、手術前の手洗いは水道水のまま…。（日本では滅菌水）

# ②外来診察

待合の廊下

日本からの医療チームの評判を聞きつけたくさんの患者さんが来ていました。

診察風景

手術のために、丁寧に診察していきます。

停電があります。

今回はしょっちゅう…

でも、慣れているので

問題ありません。

## ③病棟

ベッドが足りないと、床にマットを敷いて患者さんが寝ています。

毎日、手術前８時頃、手術後２１時頃に回診します。

看護師は、白の白衣は病院スタッフ、薄紫色の白衣はＢＲＡＣ大学の学生です。
この他にジョイラムクラ病院附属看護学校の学生もいます。

# ④私達の宿泊

病院敷地内にあるゲストハウスです。

三食スタッフが
作ってくださいます。
毎食カレーです…

部屋のベッド
蚊帳は必須です。

村の床屋さんも訪問

実はこの床屋さん、病棟で看護助手さんとしてアルバイトしていました。

## ⑤建設中

新手術室と病棟が建設中
オーストラリアミッションの寄付

実は2015年からこの状態…
募金が集まらず、工事は途中で止まったままです。

# 最後に

## ①どうして危険なバングラデシュを支援するの？

『わたしは植え、アポロは水を注いだ。
しかし、成長させてくださったのは神です』
（新約聖書・コリント人への手紙1　第3章6節）

宮崎亮医師、安子医師ご夫妻の小さな活動から始まったこの医療協力。新生病院にご夫妻が与えられなかったら、バングラデシュにご縁もなく、訪れることもなかったであろうと思うと、この御導きに感謝です。

7月1日、ダッカでのテロ行為により、日本人を含む多くの人が殺害された事件は、記憶に新しいことと思います。

一部の人の心ない行為が、平和なバングラデシュをとても危険な国にしてしまいました。

ダッカ市内の市場にて

バングラデシュに暮らす現地の人達こそ、自分達の国でこんな悲惨な事件が起こったことを悲しんでいます。

危険だからバングラデシュとのかかわりをやめるのではなく、そんな時だからこそ、この与えられたご縁を大切に、私達が今「何ができるか」を考え、実行に移すことが大事なのではないかと、改めて思っています。

結核で苦しんでいる日本人のために、小布施に結核療養所の建設を決めたカナダミッションの宣教師達。その募金の呼びかけに応えて、ワンダイム硬貨をぴかぴかに磨いて差し出した小さな子ども。その小さなひとつひとつが今の私達の新生病院、そしてワンダイムにつながっています。

そのことを改めて思い返すと、今度はそんな私達が、苦しみ、悲しみ、困難の中にあるバングラデシュの人達に、寄り添う番ではないかと思っています。

子どもの患者さんに話しかける
宮崎亮先生、安子先生ご夫妻

# ②バングラデシュへの医師派遣はこれからも続けるの？

『この最も小さい者の一人にしたのは、
わたしにしてくれたことなのである』
（新約聖書　マタイによる福音書　第２５章４０節）

現在のバングラデシュのような危険な国・地域への医師派遣は、ワンダイムの海外医療協力では考えていません。苦しみ、悲しみ、困難の中にある『最も小さい者』に寄り添う、その具体的な行動は「医師派遣」だけではないと考えています。

例えば、これまでも現地の医師、看護師の「研修受け入れ」をしてきました。これからも、そのようなプログラムを検討する予定です。

その他にも、私達に今「何ができるか」という視点で、プログラムを考えたいと思っています。

バングラデシュから研修に来た
チャクマ医師

ただ、「寄り添う」という具体的な行動のひとつとして、ニーズとご縁があれば、国内情勢の落ち着いている国・地域への「医師派遣」を検討したいと思っています。

# みなさまの心を、お寄せください。

宮崎亮医師、安子医師ご夫妻の小さな活動から始まったこの医療協力。ご夫妻の引退後、その「思い」と「願い」を新生病院が受け継ぎ、さらなる活動の展開を目指してNPO法人「ワンダイム」を設立しました。

基金0円から始まったワンダイムです。みなさまからいただく募金、そして「募心（ぼしん）」を、この貴重な活動をこれからもつなげていくために、大切に用いたいと思います。

応援、ご支援、ご協力、
よろしくお願いいたします！